

ハマヤク4つの専門学科

健康を守り、未病を整え、病を治す――

人の健康状態3ステージで活躍できる薬剤師を育てる3学科と未来の薬を生み出す研究者・技術者を育てる1学科
現代医療が待望する4領域（6年制3学科と4年制）が融合する教育・研究体制を確立

予防医療

健康薬学科

Department of Health Pharmacy

東洋医療

漢方薬学科

Department of Kampo Pharmacy

西洋医療

臨床薬学科

Department of Clinical Pharmacy

人の健康ステージ

健康

未病

病気

学科ごとの特徴を
確認することができます
気になる学科をクリック！

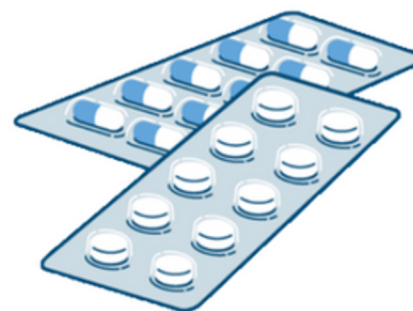


創薬研究

薬科学科

Department of Pharmaceutical Sciences

薬を使う（6年制）



薬を創る（4年制）



健康薬学科

健康寿命延伸の
実現に向けて、
予防から治療まで
カバーできる
薬剤師を目指します。



将来の活躍フィールド

- 保険調剤薬局薬剤師
(調剤併設ドラッグストア含む)
- 病院薬剤師
- 衛生研究所
- 保健所
- 食品企業
- 麻薬取締官
- 薬事行政
- 大学院進学 など

健康薬学科 Webページ



MESSAGE ■ 学科長メッセージ

健康長寿を叶える薬剤師に

わが国において死因の第一位は「がん」です。二人に一人は生涯に一度は「がん」に罹患します。「がん」をはじめとする生活習慣病は、生活習慣の改善と定期的な健診・検診により予防可能な疾患です。このように、「健康の維持・増進」のためには「疾病予防」が最も効果的であることは言うまでもありません。薬学は、「薬を創る」「薬の作用機構を解明する」「薬を正しく有効に使う」などを中心とした学問であるとして一般的に認識されていますが、「健康の維持・増進」「疾病予防」も薬学の重要な学問分野なのです。健康薬学科では、疾病の発症要因である、遺伝的素因や生活習慣、そして環境要因などに関する学問を修得し、各種疾病の原因をさまざまな角度から究明し、病原体や化学物質の健康影響とその作用機構解析などを通じて、「健康の維持・増進」「疾病予防」に貢献できる薬剤師を育成しています。



健康薬学科長
香川 聡子 教授

博士(薬学)／
環境科学研究室 教授

〔所属学会〕
日本薬学会 ／ 日本毒学会 ／
室内環境学会

治療から予防へ、 健康をサポートできる薬剤師を育成

健康薬学科では、「薬理学」や「薬物治療学」などの「医療薬学」のみならず、健康維持・増進の観点から「衛生薬学」の知識を修得し実践できる薬剤師を育成しています。「衛生薬学」とは、「栄養学・食品衛生学」「スポーツ薬学」「公衆衛生学」「毒性学」「環境衛生学」など、原子・分子から地球環境に至る広範なテーマを人の健康の問題としてとらえながら、人、そして人の集団である社会の健康維持・増進に寄与する学問です。急激な少子超高齢化や医療技術の進歩など大きく変化する医療環境に適応し、「薬剤師」としてのみならず、「行政機関」をはじめとする多様な分野で社会貢献できる人材の育成を目指しています。

健康薬学科固有の専門科目

- ▶ スポーツ薬学
- ▶ 運動と健康
- ▶ 精神と健康
- ▶ 未病学
- ▶ 食品機能学
- ▶ 食品安全性学
- ▶ 生活習慣病特論
- ▶ 環境毒性学
- ▶ 医療と栄養
- ▶ 生活環境と健康
- ▶ 産業保健論

※ 令和7年3月現在

カリキュラム

1 年次

健康維持や疾病に関する知識を身に付ける

1年次の「スポーツ薬学」は運動と休養の重要性や健康との関連を把握することを目的として、運動と休養による身体の生理的機能の変化を知り、運動が身体に及ぼす影響を修得します。生活習慣病予防のための適切な運動、ジョギングの指導法を習得するため、スポーツ薬学を基礎として運動処方の意義と実際、肥満と健康などを学び、実地講習も行います。

2 年次

「未病学」を学ぶ

健康な生活を守ることを通して社会に貢献する薬剤師として、高齢社会医療における役割と現状を把握して、介護予防・治療などの基本的な知識を修得します。

3 年次

「食品機能学」を学ぶ

食品中に含まれる健康の維持・増進に役立つ各成分(機能性食品成分)の生体調節作用を理解することで、食生活の改善が疾病予防や健康増進に果たす重要な役割について学びます。

4 年次以降

4年次で学ぶ「生活習慣病特論」と6年次で学ぶ「医療と栄養」

「生活習慣病特論」では各生活習慣病を発症させるさまざまな要因、処置、具体的な予防方法について深い知識を修得し、人々の生活習慣病予防を指導できる能力を身に付けます。「医療と栄養」では食生活が健康に与える影響を科学的に理解するために、栄養と食品機能、食品衛生に関する基本的知識と技能を修得します。

健康長寿には 健康習慣の実践が重要です

5つの健康習慣を実践することで、がんになるリスクが低くなります。



禁煙する



食生活を見直す



適正体重を維持する



身体を動かす

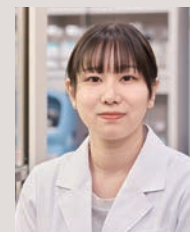


節酒する

TOPICS 学科を選んだ理由

健康に関する幅広い知識を持ち 治療だけでなく予防にも貢献したいです

進路選択の際、将来医療現場で働くことを見据えて、健康に関する幅広い知識が必要と考えていました。健康薬学科では薬物治療だけでなく、運動や食事を通じた健康維持・増進についても学ぶことができ、この点が私の希望と合致していました。実際に、運動生理学、栄養学、といった授業があり、身体と運動の仕組み、食品の性質を学んでいます。



健康薬学科 5年
佐野 瑞季 さん
神奈川県
横須賀学院高等学校出身

オススメ の授業

スポーツ薬学

個別の授業の面白さに加えて、分野横断的な学びがあるのも楽しいポイントです。例えば、ある分野で学んだことが別分野の理解に役立つ、関連性を見つけることでより深い学びとなる、といった経験ができます。ぜひ、幅広い分野の授業を選択して自分なりの発見をしてください。

受験生へのメッセージ

From students to you

私たちの生活は健康が基盤となっています。その健康を維持する仕組み、健康を損なう要素、改善する方法、といった専門的な知識があれば自分のもとより、あらゆる人の健康に貢献することができます。薬物治療だけでなく、運動や食事を通じた予防にも興味がある方はぜひ健康薬学科をご検討ください。



漢方薬学科



現代医療に欠かせない
漢方薬に精通した
薬のプロフェッショナルを
目指します。

将来の活躍フィールド

- 保険調剤薬局薬剤師
(調剤併設ドラッグストア含む)
- 病院薬剤師
- 衛生試験所
- 保健所
- 食品企業
- 麻薬取締官
- 薬事行政
- 大学院進学 など

漢方薬学科 Webページ



MESSAGE ■ 学科長メッセージ

漢方薬の知識をしっかりと身に付け 疾病予防や生活改善に貢献する薬剤師に

漢方薬は長い歴史のなかで、さまざまな生薬の種類、量、組み合わせなどが工夫されて確立されたもので、西洋薬治療で解決できない疾患の治療、西洋薬の補完や副作用軽減などの効果を期待されて、多くの診療科で処方されています。今日、8割を超える医師が日常診療のなかで漢方薬を使用することがアンケート調査で報告されており、処方箋を預かる薬剤師として漢方薬に関する知識は欠かせないものになっています。また超高齢化社会において、薬剤師はセルフメディケーション、セルフケアの中心的役割として、健康の維持・増進に関するサポートも求められるようになってきましたが、複数の病気を抱える高齢者と漢方との相性の良さも注目されています。横浜薬科大学では国内でも数少ない漢方薬学科を擁し、幅広く漢方の知識を学ぶカリキュラムを設けて、漢方に精通した薬剤師養成を目指しています。



漢方薬学科長
梅原 薫 教授

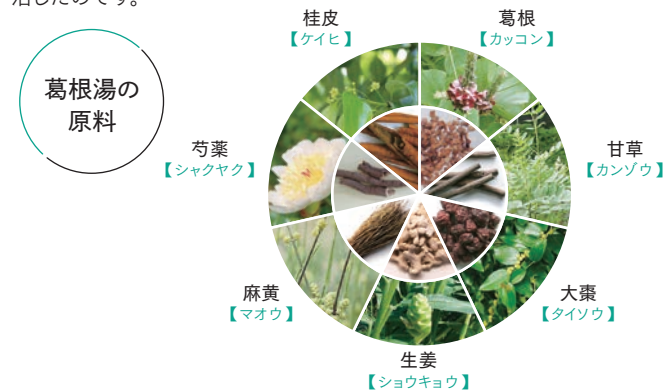
博士(薬学)／薬剤師／
漢方天然物化学研究室 教授
[所属学会]
日本薬学会／日本生薬学会

漢方薬に精通した 薬剤師を育成

現代医療において漢方薬の重要性がますます高まり、漢方薬の知識をしっかりと備えた薬剤師が求められています。薬のプロとして漢方薬にも精通した薬剤師の育成が漢方薬学科の目的です。

漢方が近年、脚光を浴びているのはなぜか？

江戸時代末期まで漢方は日本医学そのものでした。しかし明治初期の医師免許制定と同時に「医師免許は西洋医学を修めた者だけに与えられる」ことが決定され、漢方は医学の表舞台からほとんど姿を消してしまいました。しかし漢方の素晴らしさを継承してきた人々の努力により、1976年には約40種類の漢方製剤が健康保険薬として認定されたのです。それ以来、漢方の薬効に注目が集まり、今日の医療に欠かせない存在にまで復活したのです。



■ 漢方医学と西洋医学の比較

薬物	漢方医学	西洋医学
薬物原料	天然生薬の組み合わせ	化学薬品
治療の考え方	患者個人の体質を重視しながら 生体の自然治癒力を高める	病気の客観的・分析手法により 病気の原因を薬で除去する
治療の方法	人が本来持っている生命力を引き出しながら 病気を治療する	薬の力を使って病気の原因そのものを除去して治療する

漢方薬学科固有の専門科目

- ▶ 漢方入門
- ▶ 基礎漢方処方学
- ▶ 漢方薬効解析学・薬理学
- ▶ 伝統医薬学
- ▶ 漢方薬学2
- ▶ 基礎漢方薬学2
- ▶ 本草学
- ▶ 漢方処方解析1
- ▶ 漢方薬物学
- ▶ 漢方処方解析2
- ▶ 臨床漢方治療学
- ▶ 漢方治療学総論

※ 令和7年3月現在

わが国の先人たちが確立してきた「漢方」とは何か？

漢方の歴史は飛鳥時代の遣隋使たちによって中国医学が日本へ伝えられたのがその始まりとされています。「漢方」は中国独自の薬ではなく、実は中国医学をベースに鎌倉、室町、江戸時代の先人たちが日本独自に改良を重ね、発展していったわが国固有の医薬学（漢方）です。ちなみに中国で発展した医薬学は「中医学」と呼び、漢方とは区別されます。

「漢方薬」と「西洋薬」の大きな違いは何か？

漢方は天然の生薬を個人の症状に合わせて薬物を調合することによって、人間の自然治癒力を高める治療を行います。一方、西洋薬は化学薬品が原料であり、殺菌、熱、痛みを取る、血圧を下げるといった病気の原因をピンポイントで除去して治療します。最新の医療現場では、この2つを患者さんの病状に合わせて有効に組み合わせる高度な知識と技術が求められています。

中国

中国で独自に発展した医学
中国伝統医学
(中医学)

6～7世紀
に日本へ
伝来

日本

江戸時代に独自発展
漢方医学
(漢方)

TOPICS

学科を選んだ理由

西洋薬との違いを知り 生薬や漢方医学に興味を持ちました

漢方薬の原料「生薬」について、植物や動物の一部など自然の物が人間の病気に薬効を持つ点に興味を持ち、漢方薬学科を選択しました。漢方医学には「未病」という言葉があり、これは昨今推進されているセルフメディケーションに近い考え方です。漢方と聞くと古い印象を持つかもしれませんが、未病の段階で個々人に適した漢方薬を処方できる薬剤師は、これからの時代必ず必要とされる存在になると感じています。



漢方薬学科 5年
長嶋 優太 さん
神奈川県鎌倉学園中学校・
高等学校出身

オススメ の授業

基礎漢方薬学2

生薬と漢方薬について詳しく学べる授業です。漢方薬の試飲、模型を用いた腹診体験、臨床現場における漢方薬の応用紹介など非常に実践的な学びが魅力的。漢方外用薬の代表的な軟膏「紫雲膏」を作成する実習もあり、とても貴重な経験ができます。

受験生へのメッセージ

From students to you

漢方医学は患者さんの症状だけでなく体質や体力に応じて処方し、人の自然治癒力を高める治療を行います。一方、西洋医学は人工的に合成された化学薬品を用いて病気の原因を除去します。こうした違いに興味を持ち、漢方薬の知識を持った薬剤師を目指す方には最適な学科です。

臨床薬学科

薬物治療の高度な知識と
技能を持ち、
チーム医療の中核を担う
薬剤師を目指します。



将来の活躍フィールド

- 病院薬剤師
- 保険調剤薬局薬剤師
(調剤併設ドラッグストア含む)
- 製薬企業
- 薬事行政
- 臨床開発企業
- 大学院進学
など
- 衛生試験所
- 保健所
- 食品企業
- 麻薬取締官



MESSAGE ■ 学科長メッセージ

薬の専門家としての信頼とともに 患者さまに一層身近な薬剤師を目指す

医療と医薬品が高度・精密化する今日、医療現場での薬剤師の役割はますます重要になっています。本学の教育理念「個性の伸展による人生練磨」は、薬剤師に求められる自己研鑽による薬学教養基盤の充実と実践力の向上につながります。大学生活では、臨床で活躍する薬剤師への自己実現に向けて、新たなことを知り身に付ける喜びを感じながら学んでください。薬剤師は「科学的思考力に基づく問題解決能力を持つ医療人」であり、科学に裏付けられた薬物療法への貢献が求められます。医薬品情報と患者情報を的確に把握し、適切な医療コミュニケーションにより医療チームと患者さまに還元する使命があります。薬学専門科目の修得とともに、さまざまな臨床・実践科目や実習・社会活動を経験し、医療チームや地域医療で活躍する薬剤師の資質を養っていただきたいと思います。



臨床薬学科長

田邊 由幸 教授

博士(薬学)／薬剤師／
衛生検査技師／
薬理学研究室 教授〔所属学会〕
日本薬理学会(学術評議員、
薬理学エディター)／
日本薬学会／日本肥満学会／
日本血管生物医学会／
日本分子生物学会

即戦力となる 薬物治療のプロを育成

医師、看護師などさまざまな医療専門職と協働し、患者さんを中心とするチーム医療において薬学的患者ケアを担うことのできる人材の育成を目指しています。基礎から臨床まで幅広い薬学の専門知識と技能を身に付けるとともに、臨床薬学科固有の専門科目において、ほかの医療職の職務と考え方を理解し、医療チームでの情報共有と医療コミュニケーションの手段を学びます。また、医薬品と薬物療法が急速に進歩するなかで、副作用のモニタリングや処方提案、先端医薬品の臨床開発研究、救急医療や疾患の予防などを学びます。ほかの医療職と連携し、一人ひとりの患者さんの薬物療法を支え、臨床研究にも貢献できる薬剤師を目指しています。

医療の高度化・専門化に伴い 専門職の一員として “薬物治療の患者個別化”を重視

現代の医療は医師、薬剤師、看護師などでチームを組み、それぞれの職能の専門性を駆使して患者さんとその家族に適切な治療を行います。薬剤師は服薬指導、副反応のモニタリング、処方提案などの専門職能を活かして、チーム医療の一員として活躍しています。臨床薬学科では“薬物治療の患者個別化”をリードする薬剤師の育成をテーマに、臨床検査データを読み、カルテを見ながら患者さんを面談したうえで薬剤を選択できる能力を持った薬剤師・研究者を育成します。



臨床薬学科固有の専門科目

- ▶ 介護学概論
- ▶ リスクマネジメント論
- ▶ リハビリテーション概論
- ▶ 救急医療概論
- ▶ 医学概論
- ▶ 疾病予防学
- ▶ 看護学概論
- ▶ 高度先端医療論
- ▶ 運動療法概論
- ▶ 治験業務論
- ▶ 創薬化学特論

※ 令和7年3月現在

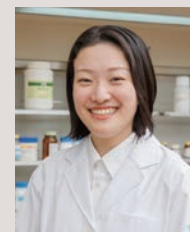
患者さん・家族を支える チーム医療



TOPICS 学科を選んだ理由

臨床現場で即戦力になれる 薬剤師を目指しています

薬剤師が働く場所は調剤薬局、ドラッグストア、病院、製薬会社など多岐にわたります。私はその中で病院薬剤師の仕事に興味があり、臨床現場で活躍できる知識と経験を得るために臨床薬学科を選択しました。薬学の専門知識と技能はもちろん、医師や看護師など他の医療職の職務を理解し、適切なコミュニケーションを学ぶことで、現場に強い薬剤師になれる環境が整っています。



臨床薬学科 5年

榎戸 遥風 さん

神奈川県向上高等学校出身

オスス メの授業

薬理学

薬が体に影響する仕組みと効果を学ぶ授業です。当初は苦科目でしたが、先生のイラストを用いた説明と、先輩や友人のサポートのおかげで、最も面白い授業となりました。薬学部の授業を楽しむコツは、疑問点や不明点を放置しないことです。皆さんもぜひ実践してください。

受験生へのメッセージ

From students to you

臨床現場では医師、看護師、薬剤師などで構成されるチームが患者様とそのご家族に適切な治療を行います。この「チーム医療」においては、他の医療職との連携を意識した行動が求められるため、学生の間にこの思考を習慣化できる臨床薬学科は病院で働く薬剤師を目指す人にとって魅力的な環境です。

薬科学科

教育・研究・開発職、
技術職など、幅広い分野で活躍する
プロフェSSIONナルを目指します。



将来の活躍フィールド

- 創薬関連企業
- バイオ・再生医療関連企業
- 病院・薬局・ドラッグストア（総合職）
- 食品企業
- 化粧品企業
- 医薬品開発企業
- 中学・高等学校教員
- 大学院進学 など

薬科学科 Webページ



MESSAGE ■ 学科長メッセージ

医薬品・食品・化粧品開発や教育現場など 社会で幅広く活躍できる人材を目指して

薬科学科では、豊かな人間性と高度な知識を兼ね備えた人物育成を目標とし、創薬、生命科学、食品、化粧品などの幅広い分野で活躍できる人材を育成しています。1学年30名の少人数であることの利点を活かして、一人ひとりの学生の個性を尊重し、伸ばし、側隠の心の習得に取り組んでいます。3年次から研究室に配属されることは他大学にはない、薬科学科の大きな魅力の一つです。ここでは、最先端研究機器を用いた研究を通じてロジカルシンキング、問題解決能力、研究発表を通じてのプレゼンテーション能力を養い、大学院を目指す学生にも好評です。また、教職課程（中学・高校理科）を有しており、教員として教育現場で活躍する卒業生もおります。就職希望者の就職率は開設以来高水準を維持しています。薬科学科では学生の希望を叶える体制が整っています。



薬科学科長
川嶋 剛 教授

博士（薬学）／
分子生物学研究室 教授

〔所属学会〕
日本薬学会／
日本分子生物学会

薬科学科はこんな学科です！

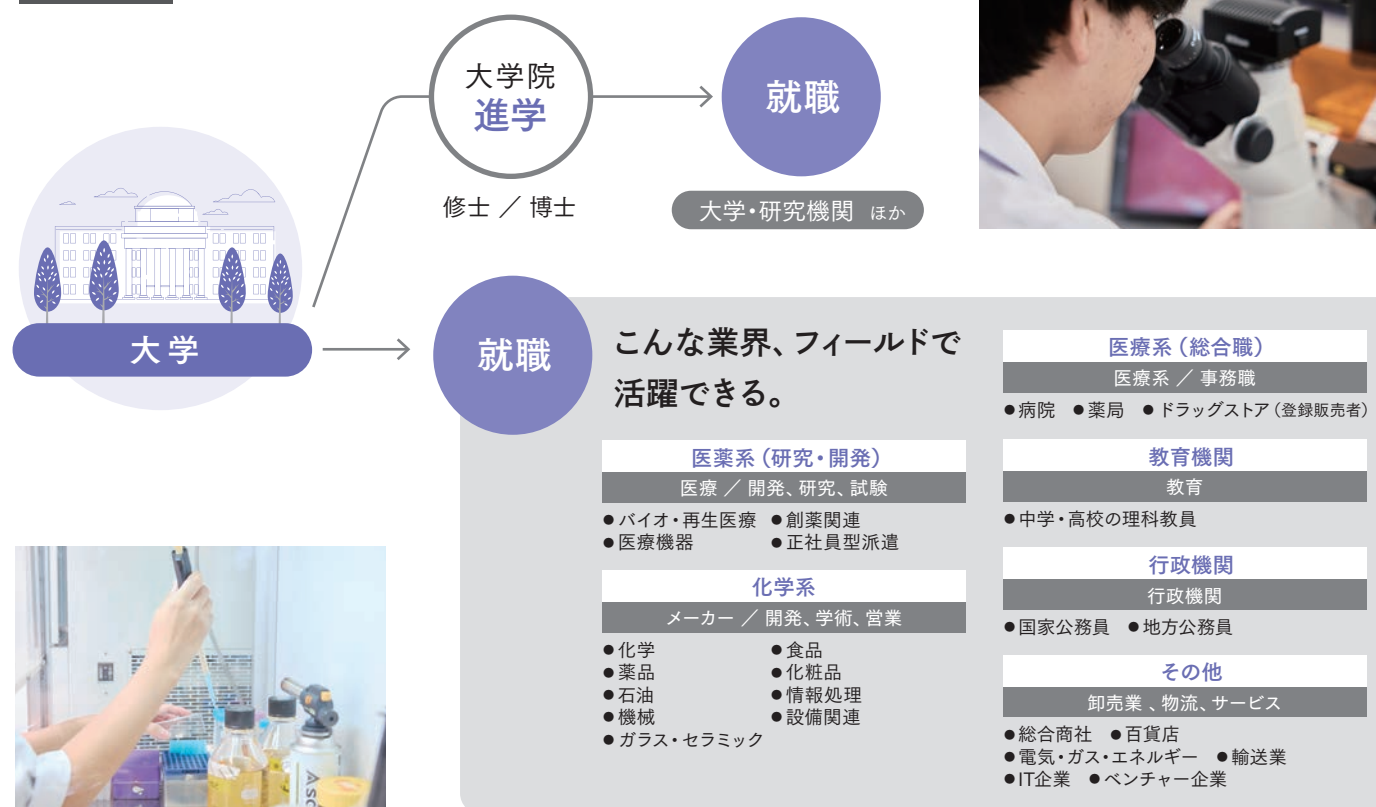
薬科学科は4年制課程で、研究者をはじめとして、理系全般に通じるマイスター（技術者）養成を主たる目的としています。卒業後に大学院で学ぶ学生も多く、将来は研究・開発職、技術職を目指す人が多いのが特徴です。

薬科学科は創薬に関する専門科目や、創薬技術および問題解決能力の醸成を目的とした実習が多く、授業でも自分の専門に特化した知識を身に付けることができます。将来の進路を見据えた研究も可能で、“徹底的に研究がしたい”という方にはおすすめの学科です。



卒業後の選択肢は多岐にわたる！

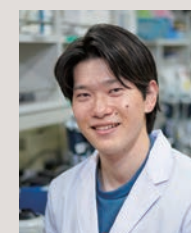
4年制課程



TOPICS 学科を選んだ理由

薬学研究に没頭できる制度は 他大学にない魅力です

もともと研究や実験が好きで、薬学部の中でもさまざまなことにチャレンジできる薬科学科に興味がありました。横浜薬科大学の薬科学科は、3年次から研究室に配属され、2年間研究を行うことができます。他大学には無いこの魅力が、自分の興味と合致していたので選びました。現在、製薬や医薬品分析の仕事に興味があり、目標に向かって研究に没頭しています。



薬科学科 3年
澁谷 昌幸 さん
神奈川県城郷高等学校出身

オススメ
の授業

薬品合成1・2

標的分子を合成するための設計図の描き方、実際に合成するための試薬の選び方、望まない副反応の可能性など、合成化学に関する総合的な内容を学ぶ授業です。1・2年次で履修する有機化学1～4の集大成で、専門性が高く、創薬研究者を目指す学生にとって非常に有用です。

受験生へのメッセージ

From students to you

研究や実験が好きの方、卒業後に医薬品や健康食品、化粧品の研究開発職を目指す方には薬科学科がおすすめです。研究発表を通じたプレゼンテーション能力、共同研究を通じたコミュニケーション能力など社会人基礎力も鍛えられるため、どんな仕事にも通用する力が培われます。